

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 定6

千葉県立行徳高等学校定時制の課程普通科

1 期待する生徒像

次のア又はイのいずれかに該当する者

ア 働きながら学ぶ意欲があること。

イ 高校生活にまじめに取り組み、自分の力を伸ばす意志のあること。

2 選抜資料

| | |
|-----------|---|
| (1) 学力検査 | 5教科の学力検査の得点 |
| (2) 調査書 | 中学校の校長から送付された調査書 |
| (3) 面接 | 評価者3名の個人面接 検査時間15分程度 ※受検者数によっては評価者2名の個人面接とする場合もある。 |
| (4) 志願理由書 | 「志願の理由」及び「自己アピール」 |

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

| 評価項目 | 評価基準 |
|----------|-------------------------------|
| 5教科の得点合計 | 5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。 |

(2) 調査書 アの数値を調査書の得点とする。

| 評価項目 | 評価基準 |
|------------------------|--|
| ア 教科の学習の記録 | 算式1で求めた数値で評価する。 評定が全学年の計で3以下の教科がある場合は、審議の対象とする。 |
| イ 出欠の記録 | 各学年で、欠席が30日以上ある場合は審議の対象とする。 |
| ウ 行動の記録 | ○が一つもない場合は、審議の対象とする。 |
| エ 特別活動の記録・部活動の記録及び特記事項 | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |
| オ 総合所見 | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |

(3) 面接〔180点満点〕

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aを20点、bを16点、cを2点とし、3名の評価者の評価（各60点満点）を合計し、得点化する。

※評価者が2名の場合には、aを30点、bを24点、cを3点とし、2名の評価者の評価（各90点満点）を合計し、得点化する。

評価に一つでもcがある場合は、慎重に審議する。

| 評価項目 | 評価基準 |
|------------|---|
| ア 志望動機 | 志望の動機が明確である。 |
| イ 高校生活への意欲 | 高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活に意欲的に取り組もうとしている。 |
| ウ 質問に対する応答 | 質問内容を的確に理解し、適切に答えることができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に答えることができる。 将来の進路希望等について、具体的に答えることができる。 |

(4) 志願理由書

| 評価項目 | 評価基準 |
|----------|------------------|
| ア 志願理由 | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |
| イ 自己アピール | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

〈総得点の満点の内訳〉

| 学力検査 の成績 | 調査書の得点 評定（算式1） | 第2日の検査の得点 面接 | 総得点 |
|-------------|-------------------|-----------------|----------------|
| 500点 | (135 + α - m)点 | 180点 | (815 + α - m)点 |

（算式1） α：県が定める評定合計の標準値95
m：中学校評定合計平均値

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

令和 2 年度 成人の特別入学者選抜の選抜・評価方法
学校番号 定 6
千葉県立行徳高等学校定時制の課程普通科

1 選抜資料

| | |
|-------------------------|---|
| (1) 作文 | 字数：400字～600字（日本語による） ※検査時間：50分 |
| (2) 面接 | 評価者3名による個人面接 検査時間15分程度 ※受検者数によっては評価者2名の個人面接とする場合もある。 |
| (3) 成人の特別入学者 選抜志願申請書 | 実施要項（様式10）により、「志願した理由」を 記入したもの。 |

2 評価項目及び評価基準

(1) 作文

複数名の評価者が、次の2つの評価項目全体について、評価基準に基づき、A（優れている）・B（標準的である）・C（問題がある）の3段階で評価する。評価にCが一つでもある場合は、慎重に審議する。

| 評価項目 | 評価基準 |
|-----------|-------------------------------|
| ア 字数・全体構成 | 指定された字数に対して過不足がなく、構成が整っている。 |
| イ 内容・文章表現 | テーマに沿った内容で書かれており、文章表現が充実している。 |

(2) 面接

複数名の評価者が、次の3つの評価項目全体について、評価基準に基づき、総合的に判定し、A（優れている）・B（標準的である）・C（問題がある）の3段階で評価する。評価に一つでもCがある場合は、慎重に審議する。

| 評価項目 | 評価基準 |
|------------|---|
| ア 志望動機 | 志望の動機が明確である。 |
| イ 高校生活への意欲 | 高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活に意欲的に取り組もうとしている。 |
| ウ 質問に対する応答 | 質問内容を的確に理解し、適切に答えることができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に答えることができる。 将来の進路希望等について、具体的に答えることができる。 |

(3) 志願申請書

| 評価項目 | 評価基準 |
|------|------------------|
| 記載内容 | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

成人の特別入学者選抜志願申請書等の書類の審査並びに面接及び作文の結果を資料とし、総合的に判定して入学者の選抜を行う。

令和2年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 定6

千葉県立行徳高等学校定時制の課程普通科

1 選抜資料

| | |
|----------|---|
| (1) 学力検査 | 5教科の学力検査の得点 |
| (2) 調査書 | 中学校の校長から送付された調査書 |
| (3) 面接 | 評価者3名の個人面接 検査時間15分程度 ※受験者数によっては評価者2名の個人面接とする場合もある。 |

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

| 評価項目 | 評価基準 |
|----------|-------------------------------|
| 5教科の得点合計 | 5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。 |

(2) 調査書

| 評価項目 | 評価基準 |
|------------------------|--|
| ア 教科の学習の記録 | 算式1で求めた数値で評価する。 評定が全学年の計で3以下の教科がある場合は、審議の対象とする。 |
| イ 出欠の記録 | 各学年で、欠席が30日以上ある場合は審議の対象とする。 |
| ウ 行動の記録 | ○が一つもない場合は、審議の対象とする。 |
| エ 特別活動の記録・部活動の記録及び特記事項 | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |
| オ 総合所見 | 記載内容を選抜の際の参考とする。 |

(3) 面接〔180点満点〕

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aを20点、bを16点、cを2点とし、3名の評価者の評価（各60点満点）を合計し、得点化する。

※評価者が2名の場合には、aを30点、bを24点、cを3点とし、2名の評価者の評価（各90点満点）を合計し、得点化する。

評価に一つでもcがある場合は、慎重に審議する。

| 評価項目 | 評価基準 |
|------------|---|
| ア 志望動機 | 志望の動機が明確である。 |
| イ 高校生活への意欲 | 高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活に意欲的に取り組もうとしている。 |
| ウ 質問に対する応答 | 質問内容を的確に理解し、適切に答えることができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に答えることができる。 将来の進路希望等について、具体的に答えることができる。 |

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

イ 入学許可候補者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。